

## 歴代会長からのメッセージ

## ニューガラスフォーラム30周年によせて

日本板硝子(株) 名誉顧問

藤本 勝司

(2006年6月～2008年6月 会長)

一般社団法人ニューガラスフォーラムが創立30年を迎えることができたことについて、このような長い歴史を刻むことができたのは、産・官・学それぞれの諸先輩方がこれまで築いてこられた功績の賜とっております。

私は2006年6月から2年間、ニューガラスフォーラムの会長に就任致しました。思い返せば、会長に就任して間もない頃、5年間の国家プロジェクトである「三次元光デバイス高効率製造技術」が始まり、就任期間中に2年余りが経過しましたが、この間、つくば研究室などで順調に成果が出始めたと記憶しています。その後、本成果は高い評価を受けることができ、現在では、その成果を普及させるべくニューガラスフォーラムの自主事業が取り組まれております。

また、NEDOの先導研究としての「直接ガラス化による革新的省エネルギーガラス溶解技術」については、この期間中に3年間の研究を終え、新たな国家プロジェクトである「革新的ガラス溶融プロセス技術開発」へ発展移行することができました。これは、シーメンズ炉に代わる溶解技術を世界に先駆けて開発する日本発の省エネガラス溶解技術という位置づけで開始した技術開発になります。さらには、ガラスデータベース「INTERGLAD」にガラス構造データを付加し、ニューガラスフォーラムが開発した「GICFLOW」を提供する新規事業もスタートできました。

これらの成果については、いずれも現在のニューガラスフォーラム諸活動に反映されており、私の任期中に、関係者の多大なる努力もあって、これら一連の国家プロジェクトが着実に遂行できたこと、ならびに、当フォーラムの大きな役割である「ガラス産業の基盤強化」に、幾ばくかの貢献ができたことなどが思い出されます。

その頃から10年近くが経過した現在、ガラス産業界あるいは当フォーラムを取り巻く諸環境は大きく変化しています。とりわけアジア新興国の台頭は著しく「グローバルな活動」が今後の大きな課題になるといえます。ニューガラスフォーラムにおいても、日本のガラス業界発展のために、長期的視点に立って、基礎研究と技術基盤を支え、世界に発信でき

る新技術・新製品の創出に向かうことが使命と考えます。また新たな10年に向け、今後とも、その活動が産・官・学が一体となった取り組みとして継続されることを期待し、見守っていきたいと考えています。ニューガラスフォーラムのより一層の活躍を期待したいと思います。